

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東淀川区

学 校 名 西淡路小学校

学校長名 柿野 久

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 56名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科ともに全国の平均正答率を下回る結果となった。国語科においては正答率が全国平均と比較し、 $-2.2\%$ である。無回答率においては全国平均の $4.8\%$ を下回る $3.1\%$ となり、自分の考えを書こうと粘り強く取り組んだ様子が見られる。

一方、算数科においては正答率が全国平均と比較し、 $-3.5\%$ であった。無回答率においては全国平均の $3.4\%$ を下回る $2.1\%$ であった。国語科と比較すると算数科に苦手意識がみられるものの、あきらめずに努力した結果が表れている。

児童質問紙では、いじめについての項目や将来の夢や目標に関する項目で数値が高かった。逆に授業の中での話し合い活動に関する項目で数値が低い傾向がみられた。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

〔国語〕総合正答率は全国と比較して $2.2\%$ 下回る結果となった。しかし、以前から課題が大きかった「記述式」の問題では全国の平均を $1.9\%$ 上回った。これは令和2年度より学力向上推進事業を活用して行ってきた国語科の授業改善の成果である。逆に「話す聞く」の領域では今年度も課題がみられた。どのように伝えれば聞き手に伝わりやすいのか。話し手が何を伝えようとしているのか、考えながら聞くという習慣づけを日々の授業の中で実践していかななくてはならないと考える。ブロック学力推進事業で毎年行っている漢字検定の取り組みもあり、漢字に関する問題の正答率は全国平均と差がみられなかった。

〔算数〕算数科は国語科に比べて、苦手意識が強く意欲的に学習できていない傾向がある。昨年度の学力経年調査では大阪市の平均正答率から $7\%$ 近く低かったが、今回の学力調査ではその差が $3.5\%$ まで縮まった。朝学習や放課後学習等で繰り返し計算の問題に取り組んできたこともあり、「数と計算」の領域での正答率が伸びている。しかし「記述式」の問題で考え方を説明する問題では、うまく表現できていない問題があり課題がみられた。

### 質問紙調査より

「いじめ」についての項目や「将来の夢や目標」に関する項目では肯定回答が全国を上回っている。これは学校で取り組んでいる、いじめについて考える集会やゲストティーチャーを招いて行うキャリア教育の実践の成果である。また、「先生はわかるまで教えてくれる」「友だち関係に満足している」という項目でも数値は高く、子どもたちが教員や友だちとのつながりの中で学校生活を送ることができていることがわかる。

一方で授業中の「自分で考えて、自分から取り組んでいる」「話し合う活動を積極的に行っている」の項目では数値が低くなっている。話し合いの場を設定しているが、子どもたちがうまく伝えられなかったり、何を話し合うのか理解していなかったりすることが原因であると考へる。

## 今後の取組(アクションプラン)

本年度は校内の授業研究についても、課題が大きかった話し合い活動、対話を中心としたテーマで授業を行っていく。授業の中で子どもたちが話し合う場を設定し、自分の考えを自分の言葉で表現できる子どもの育成に取り組む。

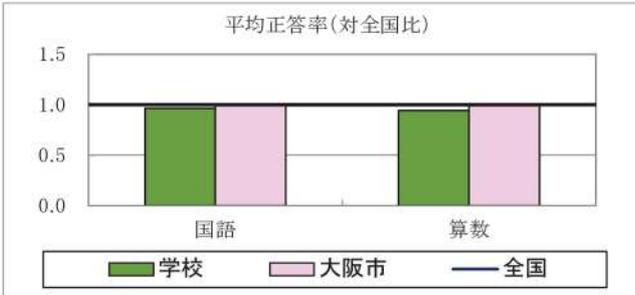
国語科では今年度も、学力向上推進事業を活用しながら授業改善に向けて協議する。また3年生からは漢字検定を受験し、子どもたちが計画的に漢字の学習に取り組むことができるようにしている。算数科でも学力UPベース事業を活用し、講師の先生から教員が専門的な授業のアドバイスを受ける機会を設定している。計算ができることを基礎として、考え方や工夫を言葉で説明できるように授業の中でも場を設定していく。

引き続き子どもたちが、自分や仲間を大切にでき、安心して学習できることを最上位の目標とし、人権教育を基軸とした豊かな教育実践の創造をめざす。

# 【 全体の概要 】

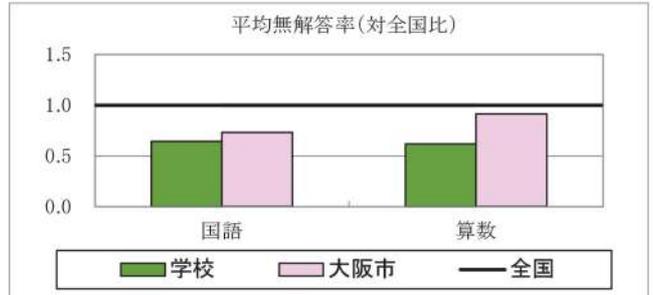
## 平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	65	59
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



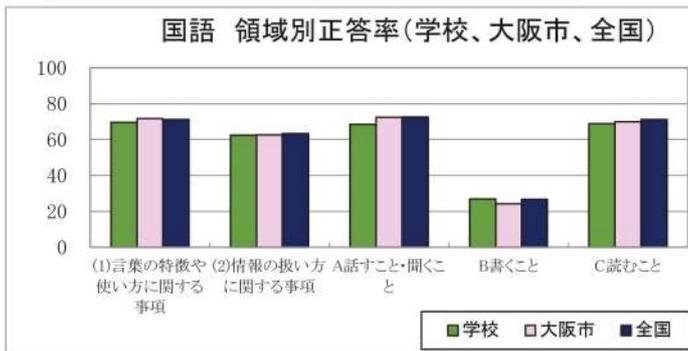
## 平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.1	2.1
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

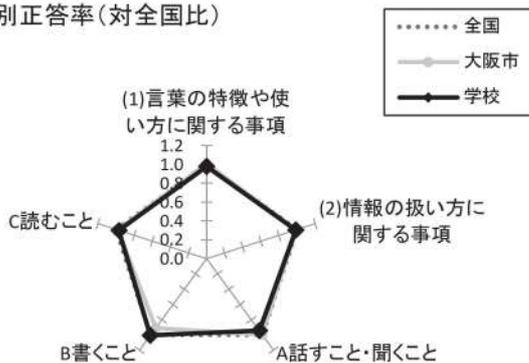


## 【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	69.6	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	62.5	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	/	/	/
A 話すこと・聞くこと	3	68.5	72.4	72.6
B 書くこと	1	26.8	24.2	26.7
C 読むこと	3	69.0	69.9	71.2

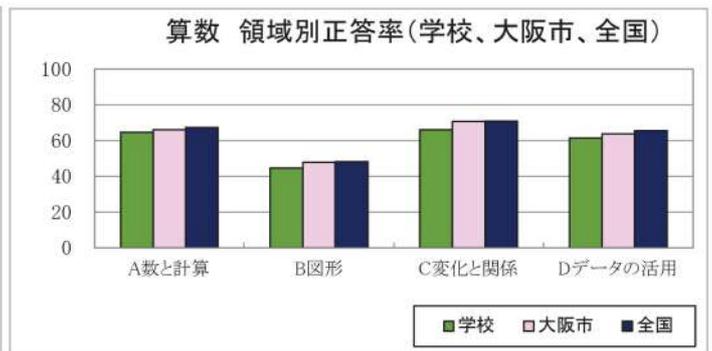


### 国語 領域別正答率(対全国比)

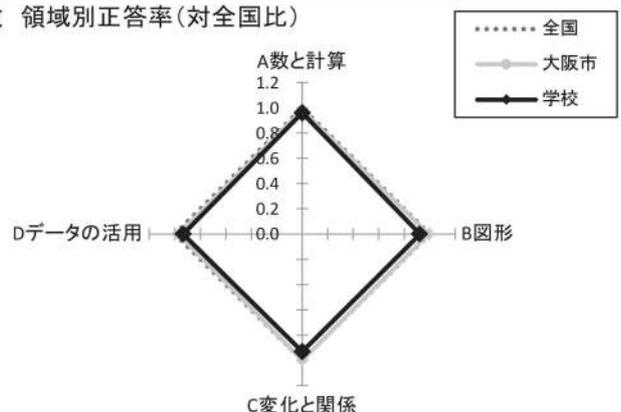


## 【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	64.6	66.1	67.3
B 図形	4	44.6	47.8	48.2
C 測定	0	/	/	/
C 変化と関係	4	66.1	70.8	70.9
D データの活用	3	61.3	63.6	65.5



### 算数 領域別正答率(対全国比)



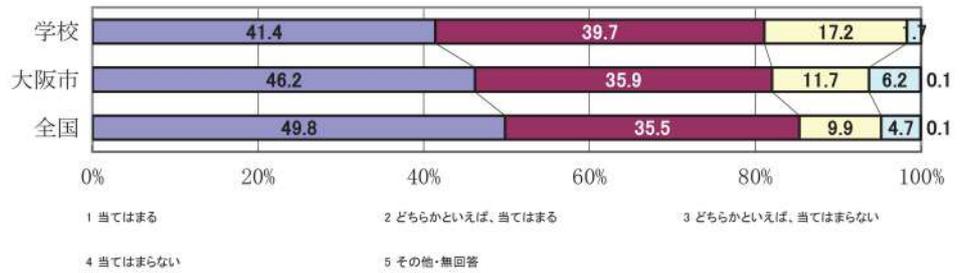
# 児童質問紙より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号  
質問事項

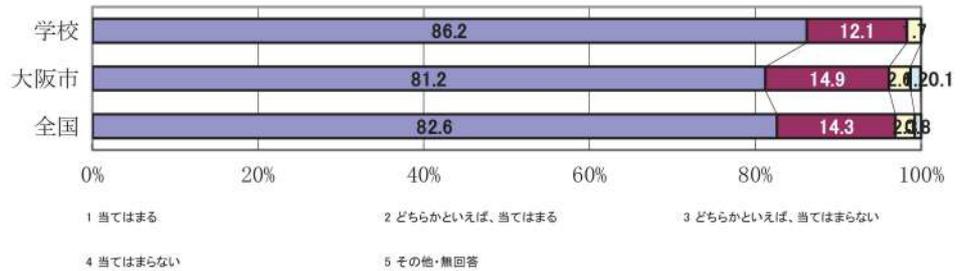
12

学校に行くのは楽しいと思う



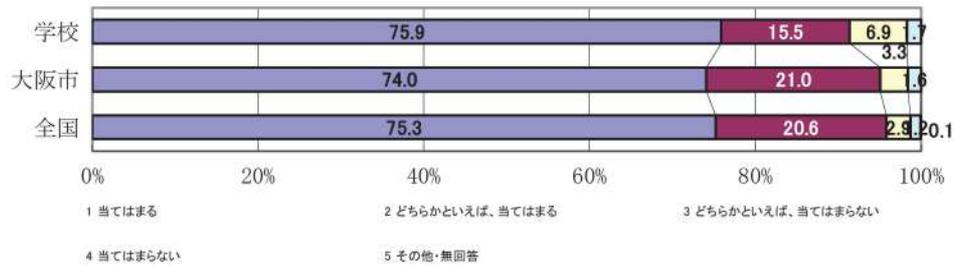
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



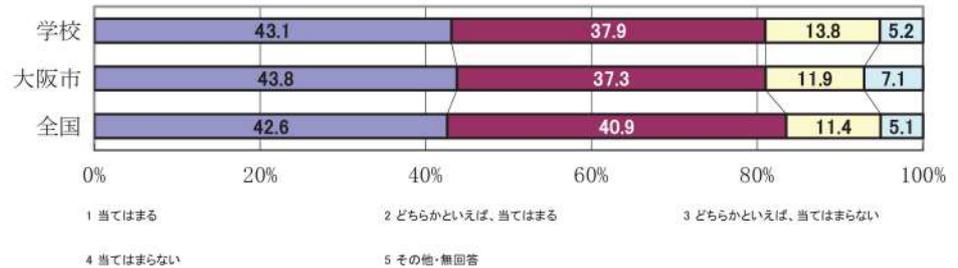
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



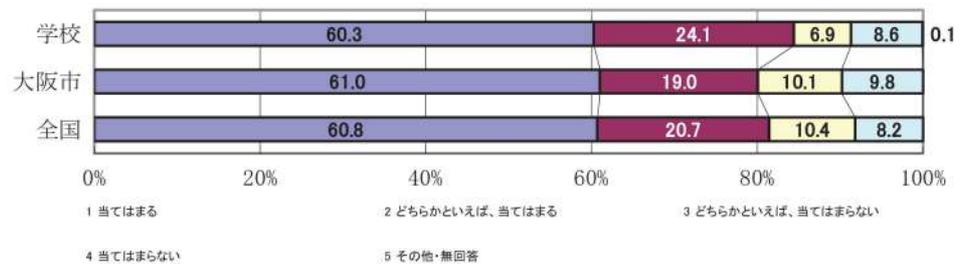
4

自分には、よいところがあると思う



7

将来の夢や目標を持っている



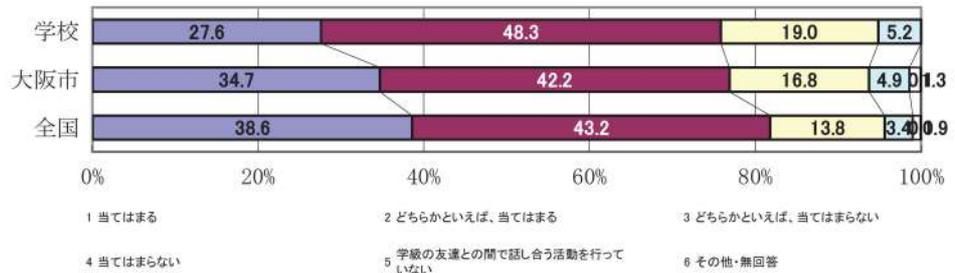
# 児童質問紙より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号  
質問事項

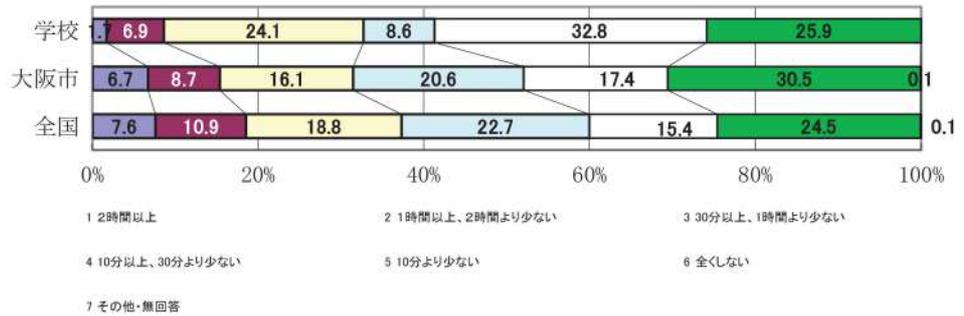
36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



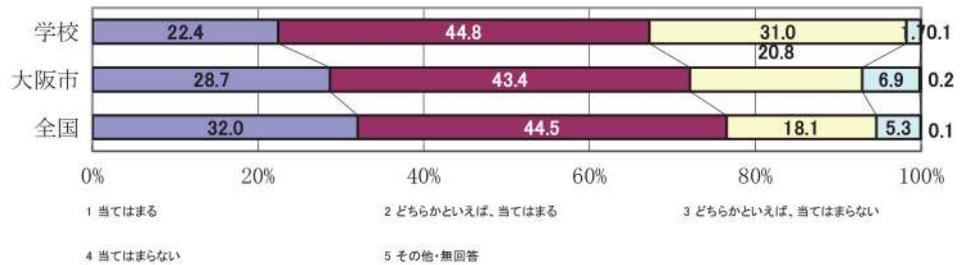
20

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）



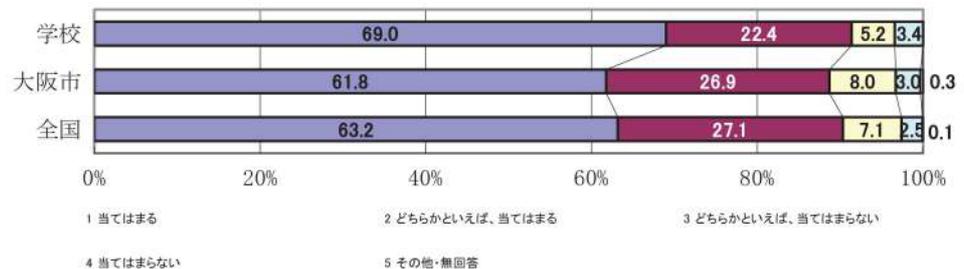
13

自分と違う意見について考えるのは楽しい



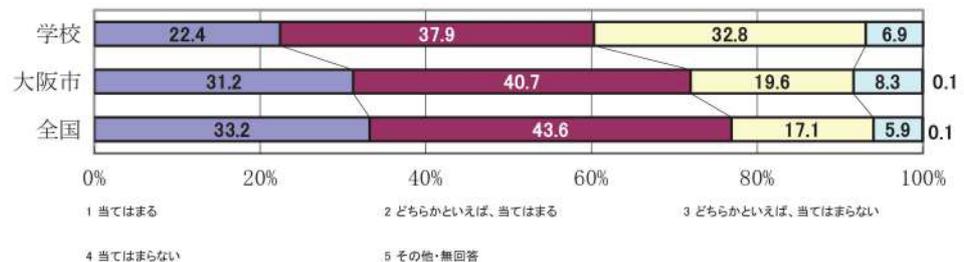
14

友達関係に満足している



26

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う



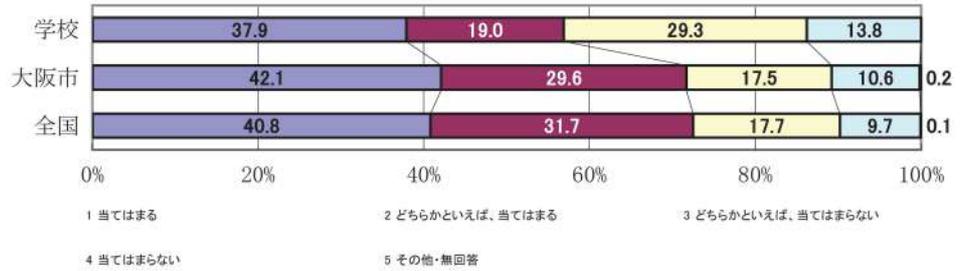
# 児童質問紙より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号  
質問事項

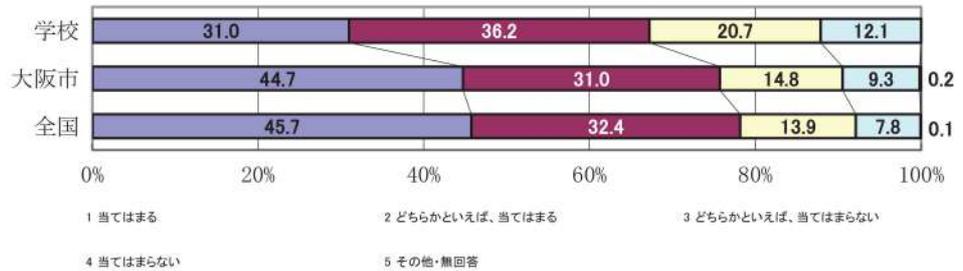
27

外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいや試してみたいと思う



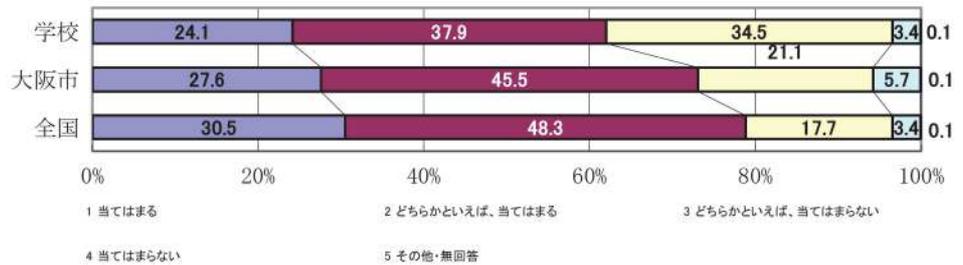
28

日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う



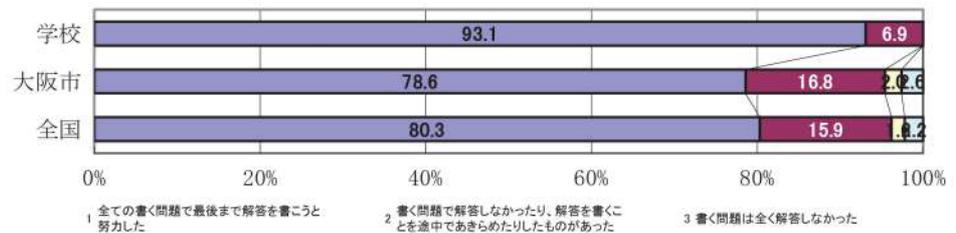
33

(5年生までに受けた)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



62

今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか



60

今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

